検討の観点と教科書の特色

もくじ

- 教育基本法第2条との関連 …… 1～2
- 学習指導要領総則との関連 …… 2～3
- 学習指導要領第3章「特別の教科　道徳」との関連
  - ・道徳科の指導及び指導の配慮事項 …… 3～5
  - ・道徳科の教材に求められる内容の観点 …… 6～7
  - ・道徳科の評価 …… 7
- 本書の編集における配慮や工夫等 …… 8

廣済堂あかつき

この資料は、（社）教科書協会の「教科書発行者行動規範」に則って作成されており、配布を許可されております。

検討の観点	教科書の特色	具体例
教育基本法第２条との関連		
第１号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと	●「みんなで考え、話し合う」ことができる本冊と、「自分を見つめ、考える」ことができる別冊「道徳ノート」の２冊の相乗効果で、豊かな情操と道徳心を培うことを基本方針として編集した。	●全学年本冊・別冊
	●内容項目「真理の探究」を扱う教材をはじめ、学習全般を通じて真理を求める態度を養うことができるよう配慮した。	●5年「はじめての実験」P42～46／6年「この本のすべてを」P68～73　など
	●健やかな身体を養うことに関わる「節度、節制」の内容項目に関する教材を低学年では３教材、３時間を配当した。また、各学年とも進級後の早い段階に学べるよう、掲載教材の配列において配慮した。	●1年「きょうもげんき」P6～7／2年「るっぺどうしたの」P4～6／3年「夜ふかししたら」P16～17／4年「目覚まし時計」P4～6　など
第２号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと	●内容項目「個性の伸長」や「親切、思いやり」、中・高学年の「相互理解、寛容」などに関する教材をはじめとして、学習全般を通じて自己肯定感を高め、自己はもとより他者の価値も尊重する態度を養うことができるよう配慮した。	●1年「みんなのはなまる」P10～11／2年「とべないペンギンくん」P59～61／3年「いいね！」P57～59／5年「グラウンドにひびく声」P33～37／6年「心は変わる」P12～15　など
	●別冊「道徳ノート」への記述を手がかりに自分の課題や目標をもって自己の能力の伸長を図るとともに、生活の中でさまざまなことに関心を抱き、創造力を高める学習が展開できるよう配慮した。	●全学年別冊巻頭「今の自分を見つめて」
	●自主、自律に関わる学習を本書の重点の一つとし、内容項目「善悪の判断、自律、自由と責任」に関する教材を、全学年３教材、３時間を配当した。	●2年「ポケット二つ」P27～29／6年「自由だからこそ」P36～39　など
	●発達の段階に応じて暮らしと働くこととの関連を意識できる教材を掲載し、特に高学年では職業に対する意識を高めることのできる教材を掲載した。	●3年「ぶどう畑のたからもの」P54～56／5年「牛乳配り」P118～120／6年「ぼくの仕事は便所そうじ」P103～105　など
第３号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと	●特に「いじめ」に関する課題は正義の問題に深く関わることから、正邪の区別ができる力を養う教材を全学年に複数掲載した。	●1年「ちいちゃんとブルくん」P80～81／5年「魚の世界」P54～55／6年「苦い思い出」P26～27　など
	●自他の敬愛と協力を重んじることについては、本書の重点の一つである「思いやり、感謝」をはじめ、「よりよい学校生活、集団生活の充実」「家族愛、家庭生活の充実」などの複数の内容項目に関する教材を掲載した。高学年では「友情、信頼」に関する教材で、男女の平等を重んずる態度を養うため、男女の人間関係を題材とした教材を掲載した。	●1年「ぼくの花さいたけど」P102～105／2年「わたしの学校いい学校」P76～78／3年「ブラッドレーのせいきゅう書」P70～72／5年「章太と孝治ー二つのえがおー」P10～15／6年「章太と孝治ーかげぼうしー」P44～49　など
	●公共の精神に基づいて、公私の違いについて考えを深めるとともに、社会に積極的に関わっていこうとする姿勢を育む教材を発達の段階に応じて配置した。また、中・高学年においては、「ともに生きる社会」という視点で児童の社会参画意識を高めるページを特設した。	●2年「みんなが気もちよく」P10～11／3年「ささえ合って生きているんだね」P116～117／4年「だれもが住みよい社会に」P128～129／5年「わたしたちにできる　ボランティア活動」P152～153／6年「自由という名の席」P86～88　など

検討の観点	教科書の特色	具体例
第４号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと	●生命尊重を本書の重点項目と位置付け、内容項目「生命の尊さ」に関する教材を全学年３教材、３時間を配当するとともに、教材の内容によっては２時間連続で構成し、生命を尊重しようとする思いが深まるよう配列を工夫した。	●【２時間連続配置の教材例】１年「ハムスターの赤ちゃん」P82～84／「とくとくとく」P85～87／５年「その思いを受けついで」P91～95／「明日もまた生きていこう」P96～100　など
	●低・中学年は自分自身の生命を守るという安全の視点から、高学年では生命の有限性、偶然性、連続性、唯一無二であることなどを、生命をさまざまな側面から多面的・多角的に考えるという視点で特集ページを設け、道徳科の授業はもとより、各教科や他の教育活動等で折に触れて活用できるよう工夫した。	●１年「じぶんでまもるあんぜんなまい日」P32～33／２年「自分でまもるよ自分のあんぜん」P40～41／３年「きけんから自分自身を守る心がけ」P114～115／４年「きけんから自分自身を守るために」P126～127／５年「命とは、生きるとは、どういうことなのだろう」P150～151／６年「命について考えよう」P158～159
	●現代的な課題との関わりも踏まえ、自然や環境に対して関心を高めることができる教材を各学年に配置するとともに、別冊への記述などを活用することで自分自身の生活を振り返り、自然や環境に対してどのように関わっていったらよいか、考えを深めることができるよう工夫した。	●３年「大自然のお客さん」P92～95／４年「ごめんね、オオキンケイギク」P18～21／６年「地球の時間、ヒトの時間」P146～149／別冊２年「かくれている生きものを見つけよう」P38／別冊４年「日本の自然をこわす生き物たち」P40　など
第５号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと	●わが国の伝統や文化に関心を高め、親しみや愛着をもち、この国の一員としての自覚を促す契機になるような教材を選定した。	●４年「日本の伝とう文化」P122～125／６年「ヤリガンナー西岡常一ー」P20～24　など
	●日本人としての自覚をもって、他国を尊重し、国際親善に努めることの大切さを考え、世界の平和を希求する思いを高めることができる教材を各学年に掲載した。低学年では写真を中心とした教材、高学年では先人の伝記を掲載するなど、発達の段階に応じて教材を選定した。	●２年「せかいはつながっている」P82～83／３年「青い目のお友だち」P104～106／４年「李さんのおひさまスープ」P68～71／５年「明日をひらく橋ー西岡京治ー」P144～148／６年「太平洋の橋になりたいー新渡戸稲造ー」P126～130　など
学習指導要領総則との関連		
【道徳教育の目標】 自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする	●本書は本冊と別冊の２冊で構成されている。本冊では、掲載教材を使って人間のよさや問題点について感じたり考えたりすることができる。別冊では自分自身の学習や自己の生き方について振り返り、心の成長を感じたり、課題や目標を見つけたりすることができる。この２冊の併用を通して、主体的に判断することができる自立した人間への成長を支える学びとなるよう編集した。	 ▲２分冊構成。多様な活用ができる「道徳ノート」
	●問題意識をもち多様に考えることができる教材、深く考えることができる教材、自己の体験や経験に照らして考えることができる教材、悩みや葛藤、心の揺れなど人間らしさが理解できる教材、よりよく生きる喜びや勇気、感動を与えられる教材など、教材の特質を踏まえて選定を行い、道徳性を構成する諸様相である道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を養うための教材をバランスよく掲載した。	
【道徳教育を進めるに当たっての留意事項】 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもち、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者として、公共の精神を尊び、社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人の育成に資することとなるよう特に留意しなければならない	●人間尊重の精神の芽生えを期待して、自他の存在を尊重する思いを強く抱くことができる詩を本冊巻頭に掲載し、児童の学習意欲を引き出し、主体的に自己の生き方について考えることができるよう工夫した。	●全学年本冊前見返し裏／１年「はじめのいっぽ」／２年「きみにあえてうれしい」／３年「ありがとうの花」／４年「空より高く」／５年「わたしと小鳥とすずと」／６年「星とたんぽぽ」
	●生命尊重を本書の重点項目と位置付け、内容項目「生命の尊さ」に関する教材について全学年３教材、３時間を配当するとともに、教育活動全体を通じた道徳教育においても活用できるよう、全学年に特集ページを設けた。	●４年「お母さん泣かないで」P25～27／「ヒキガエルとロバ」P62～64／「人間愛の金メダル」P94～96　など
	●人間のよさが描かれている本冊の教材と、道徳的諸価値の理解を確かなものにする解説や書き込み欄を設けている別冊を活用し、家庭や地域とも本書を媒介として連携しながら、豊かな心を育むことができるよう構成を工夫した。	●全学年本冊・別冊
	●「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の内容項目に関する教材を通して自国の伝統や文化への関心を高め、日本人としての自覚をもって文化の継承・発展・創造と社会の発展に貢献し得る能力や態度を養うことができるよう編集した。	●２年「楽しいお正月」P79～81／３年「ふろしき」P38～41／４年「日本の伝とう文化」P122～125／５年「日本のよさを知って」P76～79　など
	●公共の精神を尊ぶことについては、公私の違いについて考えを深めることができる教材を選定し、問いを工夫した。	●１年「あぶら山」P94～97／２年「黄色いベンチ」P24～26／３年「みんなのわき水」P64～65　など
	●他国の人や文化への理解を高めることができる教材や、地球規模で考えなければならない環境の問題に関わる教材を選定した。	●３年「青い目のお友だち」P104～106／６年「地球の時間、ヒトの時間」P146～149　など
	●先人の生き方を通して、児童が自己理解を深め、未来を拓く主体性のある日本人としての自覚を促すことができる教材を掲載した。	●６年「ヤリガンナー西岡常一ー」P20～24／６年「太平洋の橋になりたいー新渡戸稲造ー」P126～130　など

検討の観点	教科書の特色	具体例
【道徳教育の全体計画】 道徳教育の全体計画の作成に当たっては、児童、学校及び地域の実態を考慮して、学校の道徳教育の重点目標を設定するとともに、道徳科の指導方針、第３章特別の教科道徳の第２に示す内容との関連を踏まえた各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法を示すこと	●各教科における学習を生かすことができる教材を選定するとともに、別冊には他の教育活動とも連携を図りながら活用できるページを設けるなど、本書を使用した道徳科の授業が教育活動全体を通じて行う道徳教育の要となるよう配慮した。	●１年「まりちゃんとあさがお」P28～31／５年「一ふみ十年」P48～51／６年「この本のすべてを―『解体新書』の誕生―」P68～73／別冊５年「体験活動の記録」P60～61　など
	●本冊・別冊ともに裏表紙に本書を媒介とした「子どもの心の成長」に関する家庭との連携について記載した。	●全学年本冊・別冊裏表紙「保護者の皆様へ」
	●本冊では家族との関わりや家庭での出来事を描いた教材、地域の人との交流や地域における行事等を題材とした教材を数多く掲載し、家庭や地域社会との積極的な関わりを促す工夫をした。	●１年「目じるしの木」P40～43／２年「おばあちゃんのおふろ」P44～46／３年「ぼくがいるよ」P51～53／６年「高らかにひびけ」P50～52　など
	●別冊では、家の人との交流を促す記述欄や、「心のしおり」のチェック欄を活用するなどして、家庭との交流の中で児童の道徳的成長を認めたり、励ましたりすることができる。また、地域の人や身近な人たちに聞いたことや教えてもらったことを書き込むページも設け、地域社会との連携を図ることができるよう構成した。	●全学年別冊巻末折り込み「心のしおり」のチェック欄／別冊２年「国やふるさとに親しみをもって」P34～35／別冊３年「家族みんなできょう力し合って」P32～33　など
【指導内容の重点化】 児童の発達の段階や特性等を踏まえ、指導内容の重点化を図ること	●各学校において、全学年共通及び各学年段階の指導内容の重点化を図ることができるよう、本冊における各学年の掲載教材のバランス等を考慮しつつ、重点と関連の深い内容項目に該当する教材を多く取り上げた。	●全学年本冊
●各（全）学年を通じて	●「自立心や自律性、生命を尊重する心や他者を思いやる心を育てる」ことを踏まえ、全学年を通じて「善悪の判断、自律、自由と責任」「親切、思いやり」「生命の尊さ」の内容項目について学習する教材をそれぞれ３教材、３時間を配当し、生きる上で基盤となる道徳的価値観を形成することができるよう配慮した。	●１年「どんないちねんせいになるのかな」P16～17／「ぽんたとかんた」P18～21／３年「たん生日おめでとう」P26～28／「電池が切れるまで」P30～31／４年「心と心のあく手」P32～34／「真心を伝えるコミュニケーション」P36～37／６年「さとるの夏、みきおの夏」P32～35／「自由だからこそ」P36～39　など
●第１学年及び第２学年	●「基本的な生活習慣を身に付ける」ことや「社会生活上のきまりを守る」ことに関わる「節度、節制」及び「規則の尊重」の内容項目について各３教材、３時間を配当し、社会性の育成を図ることを目指した。	●１年「きょうもげんき」P6～7／「にゃんたくんとみけちゃん」P26～27／「かぼちゃのつる」P36～39／２年「るっぺどうしたの」P4～6／「黄色いベンチ」P24～26／「おじさんの手紙」P56～58　など
●第３学年及び第４学年	●「集団や社会のきまりを守る」ことに配慮し、内容項目「規則の尊重」について、３教材、３時間を配当し、「学習の道すじ」において、社会の一員としての自覚を促す問いを示した。	●３年「やくそくやきまりを守って」P13～15／「あめ玉」P76～78／４年「もどらない本」P22～24／「雨のバス停りゅう所で」P43～45／「時計係」P85～87　など
●第５学年及び第６学年	●発達の段階が上がるとともに、重点化の配慮事項や学習する内容項目が増える中、特に内容項目「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」を重視し、２教材、２時間を配当した。	●５年「日本のよさを知って」P76～79／「時計台の鐘」P134～137／６年「ヤリガンナー西岡常一―」P20～24／「高らかにひびけ」P50～52

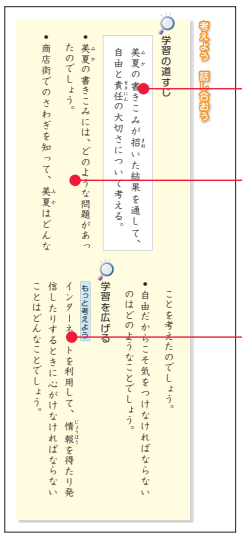
学習指導要領第３章「特別の教科　道徳」との関連　―道徳科の指導及び指導の配慮事項―

【道徳科の目標】
よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、（道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる）
※かっこ内は次ページ

●本冊と別冊「道徳ノート」の２冊を併用し、道徳科の目標達成を目指すことができるよう教科書を構成した。

●本冊においては「みんなで考え、話し合う」ことができるよう、多様で魅力あふれる教材を取りそろえるとともに、各教材に「考えよう　話し合おう」を設け、児童の主体的・対話的で深い学びを促す工夫をした。「学習の道すじ」（中・高学年）を手がかりとして、活発な話し合い活動や多面的・多角的な道徳的思考を促し、自己の生き方について考えを深める学習ができるよう構成した。

●別冊においては、「自分を見つめ、考える」ことができるよう、児童の発達の段階に応じた分かりやすい表現で、道徳的諸価値（内容項目）が端的に解説されている。また、授業を通して感じたことや考えたことを記述する書き込み欄や、一定期間のまとまりで授業を振り返りながら書き込みができる「心に残っている授業の記録」、教材ごとや内容項目ごとの学びを自己評価することができる「心のしおり」などが用意されている。自分を見つめ、振り返りながら別冊「道徳ノート」に記述することを通して、道徳的価値についての理解を確かなものにし、自己の生き方についての考えを深める学習ができるよう構成した。

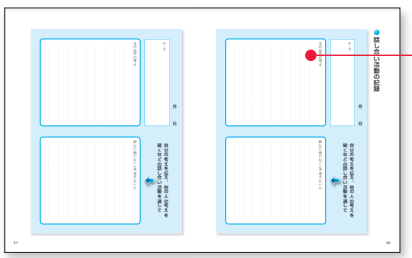


児童にとって学習課題となるめあてを示した（中・高学年）

主体的・対話的で深い学びに資する問いを示した

教材の内容や性質に応じて設けた「学習を広げる」

◀「考えよう　話し合おう」（5年 P70）

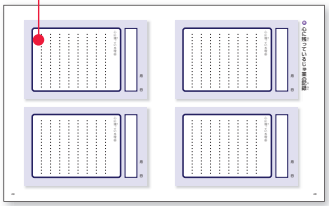
検討の観点	教科書の特色	具体例
【道徳科の目標】 （よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、）道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる ※かっこ内は前ページ	●問題意識をもち多様に考えることができる教材、深く考えることができる教材、自己の体験や経験に照らして考えることができる教材、悩みや葛藤、心の揺れなど人間らしさが理解できる教材、よりよく生きる喜びや勇気、感動を与えられる教材など、教材の特質を踏まえて選定を行い、道徳性を構成する諸様相である道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を養うための教材をバランスよく掲載した。	●【道徳的判断力を高める教材例】4 年「時計係」P85～87 ／ 5 年「ぼくは伴走者」P86～90　など ●【道徳的心情を養う教材例】1 年「七つのほし」P44～47 ／ 6 年「メジロ」P78～83　など ●【道徳的実践意欲と態度を育てる教材例】3 年「貝がら」P18～21 ／ 6 年「心は変わる」P12～15　など
	●教師が児童の実態を踏まえた「ねらい（育成する道徳性）」を設定し、その達成に向けて構想した授業の展開に応じて、教科書が柔軟に対応できるよう、道徳的諸価値の理解に役立つ解説や書き込み欄を設けた「道徳ノート」を別冊として構成した。	●全学年別冊
【指導計画作成上の配慮事項】 道徳教育の全体計画に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら、道徳科の年間指導計画を作成するものとする	●本冊の各教材は、各教科における学習内容や他の教育活動、季節や行事などとの内容的・時期的関連を考慮し、掲載順に取り扱うことで効果的な学習が期待できるよう配列を工夫した。	●全学年本冊
	●本冊巻末には各教材の該当内容項目を示すとともに、後ろ見返しには視点及び内容項目ごとの教材一覧を掲載し、年間指導計画の作成において参考となるよう配慮した。	●全学年本冊巻末「内容一覧」／全学年本冊後ろ見返し
	●別冊「道徳ノート」では、各学校の実態に応じた年間指導計画に柔軟に対応できるよう、フリーノートページを用意した。	●全学年別冊フリーノートページ
各学年段階の内容項目について、相当する各学年において全て取り上げることとする	●各学年段階において、相当する教材や各内容項目に関わる学習ページをもれなく取り上げている。	●全学年本冊・別冊
	●別冊では当該学年で学ぶ内容項目についてのページを、書き込み欄も含めて見開き２ページで構成し、内容項目順に配列した。	●全学年別冊
児童や学校の実態に応じ、２学年間を見通した重点的な指導や内容項目間の関連を密にした指導、一つの内容項目を複数の時間で扱う指導を取り入れるなどの工夫を行うものとする	●本書では、内容項目「善悪の判断、自律、自由と責任」「親切、思いやり」「生命の尊さ」を重点項目とし、これらに関する教材について全学年３教材、３時間を配当するとともに、教材の一部は２時間連続して学習できるように配列した。	●１年「どんないちねんせいになるのかな」P16～17 ／「ぽんたとかんた」P18～21 ／ 3 年「たん生日おめでとう」P26～28 ／「電池が切れるまで」P30～31 ／ 4 年「心と心のあく手」P32～34 ／「真心を伝えるコミュニケーション」P36～37 ／ 6 年「さとるの夏、みきおの夏」P32～35 ／「自由だからこそ」P36～39　など
	●例えば、「生命の尊さ」を「家族愛、家庭生活の充実」との関わりで捉えた授業を構想することなど、本冊巻末に示されている教材の関連内容項目を参照しながら、複数の内容項目との関連を密にした指導を立案することができるように内容項目を明示した。	●１年「七つのほし」P44～47 ／ 2 年「カメタのなみだ」P84～87 ／ 3 年「きよしのなやみ」P73～75 ／ 4 年「時計係」P85～87 ／ 5 年「ぼくは伴走者」P86～90 ／ 6 年「三六五 × 十四回分のありがとう」P53～56　など
【児童が主体的に道徳性を養うための指導】 児童が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫すること	●別冊「道徳ノート」を活用し「自分が自分に自分を問う」ことを通して、児童が自分自身の学習を振り返って成長を実感したり、課題や目標を見つけたりすることができる。 ●別冊「道徳ノート」は児童にとって貴重な内面の記録となり、また、保存性に優れ、整理や保管がしやすいことからも、長期的な視野で自らの成長を振り返ることができる。	●全学年別冊
道徳性を養うことの意義について、児童自らが考え、理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすること	●本冊の各教材に設けている「考えよう　話し合おう」に示した問いを手がかりとして、児童の主体的な学習が促されるよう配慮した。	●全学年本冊
	●別冊「道徳ノート」には道徳的諸価値（内容項目）について発達の段階に応じた解説が示されている。その解説を読むことで児童は学習を通して身につけた道徳的知見を改めて確認することができる。それは道徳的な学びの意義を理解することになり、主体的な学びの姿勢へと繋がることが期待できる。	●全学年別冊
【多様な考え方を生かすための言語活動】 児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に話し合ったり書いたりするなどの言語活動を充実すること	●多様な考え方や感じ方に接する機会は、教材中の出来事や登場人物によってもたらされたり、他者との話し合いの場で得られたりすることから、対話的な学習が授業の中で活発に展開されるよう「考えよう　話し合おう」における問いに工夫を凝らした。	 ▲「話し合い活動の記録」（5 年 P56～59）
	●別冊「道徳ノート」には話し合い活動の記録ページを設け、話し合い活動において積極的に他者と意見を交流することができるよう配慮した。また、学習を通じて考えたことを記述したり、その記述を後で読み返したりすることで、自分の考えをより確かなものとすることができるよう配慮した。	自分とは異なる感じ方、考え方に触れることで物事を多面的・多角的に捉えることができ、自分の見方や考え方が広がったり深まったりする様子を記録できる。

検討の観点	教科書の特色	具体例
【問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導】 児童の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること	●本書では道徳科における「問題解決的な学習」を取り入れることができる教材が具備すべきこととして次の４点をあげて編集した。 ・道徳的価値が介在している道徳上の問題であること ・児童が自己の問題として捉え、考えられる問題であること ・道徳的価値との関連から、その問題の解決が目指される学習であること ・道徳科の目標の実現やその時間のねらいの達成に資する学習であること ●教材の選定にあたっては、解決を目指す「問題」の態様として次の４つのいずれかの状況に起因することを条件として編集した。 ・道徳的価値が実現されていない状況 ・道徳的価値についての理解が不十分な状況 ・道徳的価値を実現しようとするができない状況 ・複数の道徳的価値のどちらを優先すべきか逡巡する状況	●１年「みんなでつかうばしょなのに」P34～35／２年「だれにたくさんあげようかな」P88～91／３年「森のげいじゅつてん」P60～63／４年「絵葉書と切手」P72～75／「時計係」P85～87／５年「うばわれた自由」P16～20／「ぼくは伴走者」P86～90／６年「さとるの夏、みきおの夏」P32～35／「車いすの少女」P66～67　など（内容解説資料本体 P28～29、30～31 参照）
	●児童の体験を想起したり、役割演技を促したりする問いや活動を本冊の「考えよう　話し合おう」や別冊「道徳ノート」に設け、指導のねらいに即して道徳的行為に関する体験的な学習が適切に取り入れられるよう配慮した。	●１年「みんなのはなまる」P10～11／２年「ふわふわことば　ちくちくことば」P74～75／「こんなときどうするの」P96～97／別冊 2 年「気もちのよいふるまいを」P18～19／ 3 年「心と形が一つになって」P90～91／ 4 年「真心を伝えるコミュニケーション」P36～37／ 5 年「バスと赤ちゃん」P7～9／ 6 年「客には言わんのですか」P84～85　など（内容解説資料本体 P28～29、30～31 参照）
	●教材ごとに独立した「型」としての指導とならないよう、本冊の「考えよう　話し合おう」においては「登場人物への自我関与が中心の学習」となる教材においても、問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れた問いを示すなどして、主題やねらいに応じてそれぞれの要素を組み合わせながら、授業者の展開構想に柔軟に対応ができるよう工夫した。	●全学年本冊
【情報モラルと現代的な課題に関する指導】 児童の発達の段階や特性等を考慮し、第２に示す内容との関連を踏まえつつ、情報モラルに関する指導を充実すること	●発達の段階を考慮しながら、情報モラルについて考えることのできる教材を全学年に掲載した。加えて、中・高学年においては本冊に特集ページを設け、他の教育活動とも関連を図りながら折に触れて活用できるよう工夫した。	●１年「けいじばんのらくがき」P66～68／３年「きよしのなやみ」P73～75／４年「少しだけなら」P50～52／５年「だれも知らないニュース」P66～70／「守ろう　インターネットの世界のルールやマナー」P154～155／ 6 年「著作権とは何だろう」P162～163　など（内容解説資料本体 P26～27、30～31 参照）
児童の発達の段階や特性等を考慮し、例えば、社会の持続可能な発展などの現代的な課題の取扱いにも留意し、身近な社会的課題を自分との関係において考え、それらの解決に寄与しようとする意欲や態度を育てるよう努めること	●現代的な課題に関する教材を、発達の段階を考慮して取り上げた。各教材の取り扱いについては、知見を得るだけではなく、それぞれの問題の解決に寄与しようとする道徳的実践意欲と態度が養われるよう、本冊の「考えよう　話し合おう」の問いに工夫を凝らした。	●２年「えんぴつは何さい」P54～55／ 4 年「ごめんね、オオキンケイギク」P18～21／５年「一ふみ十年」P48～51／ 6 年「二つの『もったいない』」P142～145　など（内容解説資料本体 P24～25、30～31 参照）
多様な見方や考え方のできる事柄について、特定の見方や考え方に偏った指導を行うことのないようにすること	●現代的な課題に関する教材については、それぞれ異なる立場での主張がなされるものやさまざまな対立的な問題を抱える事柄が多いため、一面的な扱いを避け、多様な見方・考え方ができるよう留意した。	●６年「七十八円の命」P40～43／「車いすの少女」P66～67／「地球の時間、ヒトの時間」P146～149　など（内容解説資料本体 P24～25、30～31 参照）
【家庭や地域社会との連携による指導】 道徳科の授業を公開したり（中略）家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ること	●本冊・別冊ともに裏表紙に本書を媒介とした「子どもの心の成長」に関する家庭との連携について記載した。	●全学年本冊・別冊裏表紙「保護者の皆様へ」
	●本冊では、家族や地域を自分との関わりにおいて考えることができるよう、家族との関わりや家庭での出来事を描いた教材や、地域の人との交流や地域における行事などを題材とした教材を掲載した。	●１年「目じるしの木」P40～43／２年「おばあちゃんのおふろ」P44～46／３年「ぼくがいるよ」P51～53／６年「高らかにひびけ」P50～52　など
	●別冊「道徳ノート」には、巻末折り込みの「心のしおり」に先生や家の人が児童の記述を確認することができるチェック欄を設け、本書を通じて学校と家庭が連携して児童の道徳的成長を見守り、励ましていくことができるよう工夫した。また、内容に応じて家の人と一緒に考えたり話し合ったりしながら書き込む記述欄や、地域の人や身近な人たちに尋ねたことを書き込めるページを設けるなど、「道徳ノート」が家庭や地域とのかけ橋となるよう工夫した。	教師や保護者によるチェック欄 ▲「心のしおり」（6 年 別冊）

検討の観点	教科書の特色	具体例
学習指導要領第３章「特別の教科　道徳」との関連　―道徳科の教材に求められる内容の観点―		
【教材の開発と活用の創意工夫】 児童の発達の段階や特性、地域の実情等を考慮し、多様な教材の活用に努めること。特に、生命の尊厳、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等の現代的な課題などを題材とし、児童が問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするような充実した教材の開発や活用を行うこと	●人間のよさが描かれている教材や問題点を見つけることができる教材、多面的・多角的に考えることのできる教材、心を揺さぶり児童が感動を覚える教材など、長く読み継がれてきた名作から新作までさまざまな教材を幅広く掲載した。	●【名作教材】１年「はしの上のおおかみ」P72～75／２年「黄色いベンチ」P24～26／３年「まどガラスと魚」P4～6／４年「ヒキガエルとロバ」P62～64／６年「手品師」P28～31　など ●【感動教材】１年「七つのほし」P44～47／２年「きつねとぶどう」P104～107／５年「バスと赤ちゃん」P7～9／「友のしょう像画」P121～125　など（内容解説資料本体 P22～23 参照）
	●読み物教材だけではなく、一枚の写真や一篇の詩、漫画や新聞記事をもとに考える教材など、児童の学習意欲を喚起する多様な教材を取りそろえた。	●４年「一枚の写真から」P65～67／「ぼくの生まれた日」P97～101／６年「客には言わんのですか」P84～85　など
	●「問題解決的な学習」や「体験的な学習」を取り入れることで、道徳的な問題について、多面的・多角的な思考を促す教材を多数取り上げている。「問題解決的な学習」は解決を目指す問題が道徳的であること、「体験的な学習」は活動そのものが目的化しないようそれぞれ配慮し、問いを吟味した。	●【問題解決的な学習を促す教材】１年「みんなでつかうばしょなのに」P34～35／２年「だれにたくさんあげようかな」P88～91／４年「絵葉書と切手」P72～75／５年「ぼくは伴走者」P86～90／６年「車いすの少女」P66～67　など ●【体験的な学習を促す教材】１年「みんなのはなまる」P10～11／２年「こんなときどうするの」P96～97／５年「ちゃんとやれよ、健太」P84～85　など（内容解説資料本体 P28～29、30～31 参照）
	●一面的・一方向的な思考しかもたらさない内容であるかどうか、教材の選定を慎重に行うとともに、「考えよう　話し合おう」の問いを吟味した。低学年では、発達の段階を考慮し問いは２つとし、中・高学年については「学習の道すじ」と題してめあてと問いを示し、教材によっては「学習を広げる」という学習の発展的な広がりや深まりを促す内容を掲載し、それぞれの発達の段階に応じた多面的・多角的な考察を促すための工夫をした。	●全学年本冊
	●中学年以降のいくつかの教材には、題材そのものとの関連で学習することができる で示した特集ページを設け、児童の多面的・多角的な思考を促し、学びをいっそう深めることができるよう工夫した。	●３年「『命』を考える」P29／４年「思いやりのむずかしさ」P35／５年「大いなるもの」P116～117／６年「佐江子へ」P57　など
・生命の尊厳	●本書では「生命の尊さ」を重点項目とし、全学年３教材、３時間の配当をするとともに、特集ページを設けた。各教材でさまざまな視点から生命や生きることについて考えることで、生命の尊厳を多面的・多角的に捉えて、自他の生命を尊ぶ態度を育むことができるよう配慮した。 ▲「命の教育」特別ページ（5 年 P150～151）	●１年「じぶんでまもるあんぜんなまい日」P32～33／２年「自分でまもるよ自分のあんぜん」P40～41／３年「きけんから自分自身を守る心がけ」P114～115／４年「きけんから自分自身を守るために」P126～127／５年「命とは、生きるとは、どういうことなのだろう」P150～151／６年「命について考えよう」P158～159　など（内容解説資料本体 P30～31 参照）
・自然	●発達の段階を考慮し、低学年では身近な動植物に親しみ、大切にする意欲を喚起するような教材を、中・高学年では自然環境問題に問題意識をもつことができるような教材を選定した。	●１年「ハムスターの赤ちゃん」P82～84／２年「キリンのみなみ」P98～100／５年「一ふみ十年」P48～51　など（内容解説資料本体 P30～31 参照）
・伝統と文化	●伝統や文化をさまざまな側面から捉え、児童が自己との関わりにおいて考えることができるような身近な伝統と文化について扱った教材、守り継がれてきた伝統や文化に関わる先人の伝記などのバランスに配慮し、教材を選定した。	●２年「ぎおんまつり」P36～39／３年「ふろしき」P38～41／６年「ヤリガンナー西岡常一―」P20～24　など（内容解説資料本体 P30～31 参照）
・先人の伝記 ・スポーツ （人物）	●先人や児童が知る著名人の夢や目標の達成を支えた人知れぬ努力や苦悩、そして幼少期の体験などから、児童が人物を身近に感じ、「人間として生きることの素晴らしさ」を感じ取れるよう配慮した。 ●国内外を問わず、先人の多様な生き方に触れることができるよう、全学年に伝記を掲載した。生きる勇気や知恵、人間としての弱さや醜さと、それを乗り越えようとする強さや気高さを感じ取り、「人間として生きる意味」について考えを深めることができるように配慮して、教材を選定した。 ●オリンピックやパラリンピックなどのスポーツの国際大会や、各種スポーツ競技を題材としたもの、また、さまざまな魅力あるアスリートや、アスリートたちを支える人物などを全学年で取り上げた。	●１年「虫が大すきーアンリ・ファーブルー」P69～71／２年「自分できめたことだからー福原愛ー」P70～73／３年「きっとできるー高橋尚子ー」P66～69／４年「ふるさとにとどけ、希望の舞ー羽生結弦ー」P110～113／５年「はじめての実験ー山中伸弥ー」P42～46／６年「未来を変える挑戦ースティーブ・ジョブズー」P152～156　など（内容解説資料本体 P20～21、P30～31 参照）

検討の観点	教科書の特色	具体例
・現代的な課題	●急激に変化する社会の中で、食育、健康教育、消費者教育、福祉に関する教育、法教育、社会参画に関する教育、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育、社会の持続可能な発展などの現代的な教育課題について、他の教育活動との関連を図りながら、児童が身近な問題として考えることができる教材を精選した。	●1年「あぶら山」P94～97／2年「おばあちゃんのおふろ」P44～46／3年「大自然のお客さん」P92～95／4年「李さんのおひさまスープ」P68～71／5年「法やきまりはだれのもの」P21～23／6年「地球の時間、ヒトの時間」P146～149など（内容解説資料本体 P24～25、30～31 参照）
・人権・いじめ防止	●いじめの問題は児童にとって切迫した今日的課題であることから、発達の段階に応じさまざまな角度から考察できる教材を全学年に掲載した。 ●人権やいじめの問題と関わりの深い内容項目「公正、公平、社会正義」で扱う教材はもとより、「友情、信頼」や「親切、思いやり」など、さまざまな道徳的価値の理解を深めることを通して人権尊重やいじめ防止につながるよう教材を選定した。	●1年「およげないりすさん」P60～63／「ちいちゃんとブルくん」P80～81／2年「カメタのなみだ」P84～87／3年「貝がら」P18～21／「よわむし太郎」P34～37／4年「げんたの消しごむ」P76～79／5年「魚の世界」P54～55／6年「苦い思い出」P26～27　など（内容解説資料本体 P26～27、30～31 参照）
・情報化への対応 （情報モラル）	●道徳科の特質を踏まえた情報モラルに関わる学習の充実を図るため、全学年に情報モラルについて考えることのできる教材を掲載した。加えて、中・高学年においては本冊に特集ページを設け、他の教育活動とも関連を図りながら折に触れて活用できるよう工夫した。	●1年「けいじばんのらくがき」P66～68／2年「みんなのニュースがかり」P17～19／3年「きよしのなやみ」P73～75／4年「考えよう　インターネットの世界」P130～131／5年「ちゃんとやれよ、健太」P84～85／「守ろう　インターネットの世界のルールやマナー」P154～155／6年「著作権とは何だろう」P162～163　など（内容解説資料本体 P26～27、30～31 参照）
【道徳科に生かす教材】 児童の発達の段階に即し、ねらいを達成するのにふさわしいものであること	●発達の段階は低・中・高学年という3段階はもとより、学年ごとの児童の成長を踏まえ、ねらいの達成に資する教材を取り扱うようにした。特に高学年については、児童の内面の成長が著しく、また、抽象的な思考もできるようになることから、より高次な道徳的知見に触れることができるように配慮した。	●5年「小さかったお返し」P52～53／6年「車いすの少女」P66～67／「『がんばる』はぼくの宿題」P138～141　など
人間尊重の精神にかなうものであって、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、児童が深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられるものであること	●「人間尊重の精神」は、生命の尊重、人格の尊重、基本的人権、思いやりの心などの根底を貫く国境や文化なども超えた普遍的精神であることを基に、人格の内面的な充実が図られるよう、本書の作成にあたって配慮した。	●全学年本冊・別冊
	●児童が日常生活を振り返って道徳的価値の意義や大切さについて考えることができる教材や、今日的課題を扱った教材、思いやりや友情、いじめ問題などに関わる「悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題」について扱った教材を通し、児童が自我関与し、自己を肯定的に捉え、未来に向けた展望が開け、自分の生き方の中で役立つような考察ができる教材を選択した。	●全学年本冊・別冊
	●先人の伝記については、児童が感動を覚えるような魅力的な人物を全学年で取り上げた。また歴史的な事実の理解にとどまることのないよう、「考えよう　話し合おう」の問いを吟味し、先人の生きる勇気や知恵、生きることの魅力や意味の深さなどについて考えることを通して、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を感じ取れるよう配慮した。	●3年「母のせなか―渋沢栄一―」P100～103／5年「百一さいの富士―奥村土牛―」P112～115／6年「未来を変える挑戦―スティーブ・ジョブズ―」P152～156　など（内容解説資料本体 P20～21、30～31 参照）
多様な見方や考え方のできる事柄を取り扱う場合には、特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないものであること	●教材の選定にあたっては、特定の見方や考え方に偏った取扱いにならないよう留意した。特に、現代的な課題に関する教材については、それぞれ異なる立場での主張がなされるものやさまざまな対立的な問題を抱える事柄が多いため、一面的な扱いを避け、多様な見方・考え方ができるよう配慮した。 ●各教材の「考えよう　話し合おう」の問いを吟味し、一面的・一方向的な思考しかもたらさない内容にならないよう留意した。	●全学年本冊

学習指導要領第３章「特別の教科　道徳」との関連　―道徳科の評価―

【道徳科における評価の意義】 児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める	●別冊「道徳ノート」はポートフォリオとしての役割を担い、児童が自分自身の学習を振り返り、心の成長を感じ取り、課題や目標を見出すことができ、指導者が児童の学習状況や道徳的成長を継続的に把握し、指導や評価に役立つよう工夫した。 ●学期の中間や終わりなどに、「心に残っている授業の記録」欄へ記述することを通して、一定期間において何が児童の心を動かしたのか、どのような道徳的成長があったのかを見取ることで、指導と評価に生かすことができるよう工夫した。 ●巻末折り込みの「心のしおり」には、教材別・内容項目別に学習の自己評価や振り返りができるチェック欄を設けた。	児童の記述から、より考えの深まった道徳的価値を見取ることができ、評価の参考になる。  ▲「心に残っている授業の記録」（4年 別冊）

検討の観点	教科書の特色	具体例
本書の編集における配慮や工夫等（組織・構成配列・分量・表記・造本・その他）		
道徳科の特質を反映するための構成上の工夫	●教育活動全体を通じて行う道徳教育の要となる道徳科の特質を踏まえ、児童の発達の段階に配慮しながら、各教科の学習内容や他の教育活動などとの時期的・内容的関連を考慮して配列している。	●全学年本冊
	●「道徳の時間はこんな時間」を本冊の冒頭に設け、道徳科の学習がどのようなものなのかをイメージできるよう、発達の段階に応じて児童に分かりやすい表現で示した。各学年の授業開き等での活用を通して、児童なりに本書を使った学習の流れが理解でき、学ぶ意欲が湧くよう工夫した。	●2年生以降本冊冒頭「道徳の時間はこんな時間」
「考え議論する道徳」への質的転換を図るための工夫	●児童が主体的に道徳的価値について考えることができるような教材を精選した。また、教材ごとに設けた「考えよう　話し合おう」の問いや、別冊「道徳ノート」に設けた書き込み欄などの活用により、２冊を併用して答えが一つではない道徳的課題に向き合えるよう工夫した。	●全学年本冊・別冊
「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫	●「考えよう　話し合おう」の問いをもとに、「自分が自分に自分を問う」ことを通して、主体的・対話的で深い学びにつながるよう工夫している。また、３年生以降の複数の教材には、「考えよう　話し合おう」の中に「学習を広げる」を掲載し、学習の広がりや深まりが促されるよう工夫した。	●全学年本冊
「質の高い多様な指導方法」への対応	●構成内容の異なる本冊と別冊の２分冊構成とし、指導者の展開構想や児童の学習状況等に応じて多様な指導方法を取り入れた授業が実践できるよう工夫した。	●全学年本冊・別冊
	●教材ごとに独立した「型」としての指導とならないよう、本冊の「考えよう　話し合おう」においては「登場人物への自我関与が中心の学習」となる教材においても、問題解決的な学習や体験的な学習の視点を踏まえた問いを示すなどして、主題やねらいに応じてそれぞれの要素を組み合わせながら、授業者の展開構想に柔軟に対応ができるよう工夫した。	●全学年本冊
幼児教育との連携	●入学当初の児童の学習状況を考慮し、１年生の一定の期間はイラストのみ、夏休みまではひらがなのみで学習ができるように本冊教材を配列した。	●１年「どきどきわくわくいちねんせい」P2～5／「きょうもげんき」P6～7／「こんなときなんていうの」P8～9　など
	●１年生の教材は動物を登場人物とした物語教材を数多く取り上げ、場面絵を積極的に掲載することで視覚的に内容理解を促す工夫をした。	●１年「うさぎとかめ」P12～13／「ぽんたとかんた」P18～21／「にゃんたくんとみけちゃん」P26～27　など
中等教育との連携	●中学校への学びの発展性を踏まえ、高学年においては抽象的な思考を促す教材や、人間として生きる喜びを感じ取れるような教材を通して、自己の生き方について考えを深めることができるよう配慮した。	●５年「銀のしょく台」P106～111／６年「花のき村と盗人たち」P106～111　など
内容と分量への配慮	●各学年とも、年間の授業時数に対応した教材を掲載した。	●各学年本冊35本（１年生は34本）の教材
	●各教材の分量や書き込み欄のマスの大きさや罫線間の幅等について、児童が負担感を抱かぬよう、発達の段階に配慮した。	●別冊フリーノート欄は１・２年 15 ミリ四方、３年は 11 ミリ四方、５年は幅 10 ミリ罫　など
表記や表現、文言への配慮	●誰もが内容を正確に理解できるように、当該学年の配当漢字を含む未習の漢字には、初出のみならずすべてにふりがなを配した。	●全学年本冊・別冊
	●４年生までは発達の段階に即した分かりやすい表現を用い、５年生以降は、学習上説明を要する文言や固有名詞などに、必要に応じて脚注を付した。	●全学年本冊
造本上（体裁・製本、印刷、用紙）の配慮	●判型はワイドなＡＢ判を採用し、白を基調としたゆとりある紙面で圧迫感がないよう構成するとともに、イラストを大きく扱い、児童にとって見やすく、親しみやすい紙面となるよう工夫した。	●教科書全体
	●本冊と同大判である別冊は、本冊の背に厚みを取り、見返しをつけて強度を高めることで本冊巻末に収納できる体裁とし、児童の携帯や保管時の利便性を図った。	●全学年別冊
	●別冊の中とじの針金は先端部分を内側に曲げ安全に配慮するとともに、３カ所留めにより十分な強度を確保した。	●全学年別冊
	●環境への配慮から、印刷には植物油インキを使用し、用紙は本冊・別冊それぞれの構成内容や使用用途を踏まえた再生紙を用いた。	●全学年本冊・別冊 【用紙】本冊…発色のよさ、見やすさを重視／別冊…鉛筆の書きやすさ、消しやすさを重視
特別支援教育・ユニバーサルデザインへの対応	●色覚の違いにより学習に支障をきたすことのないよう、色の識別のみによらず、文字情報をはじめとして、マークの形状やデザインの違いなどで必要な情報が読み取れるよう配慮した。また、カラーユニバーサルデザインに関しては、専門の第三者機関のＣＵＤ認証マークの取得を予定している。	●全学年本冊・別冊
	●６年本冊においてユニバーサルデザインについて児童の理解を促す特集ページを設けた。	●6年「地球共通の気配りから」P160～161